

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立須知高等学校 】

1 実践テーマ	【 II III V 】
2 実施対象者	京都府立須知高等学校第1学年67名、第2学年54名、第3学年66名 計187名 近隣の小中学生及びその保護者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (ホッケー教室) ② その他 (地域スポーツに係るボランティア活動)
4 目標 (ねらい)	(1) 生徒一人一人にスポーツの価値を気付かせるとともに、生涯スポーツの基盤を育成する。 (2) 障害者スポーツ等のボランティアに積極的に参加することで、自己肯定感を醸成させる。 (3) オリンピック・パラリンピックに向けて、おもてなし精神を培う。
5 取組内容	(1) 全校生徒への講演会 ① 生徒一人一人の生涯スポーツの基盤を育成する講演会 演題 「あなたのみんなの生と性、もっと大切に健康に、もっと幸せに」 講師 京都教育大学 教授 関口久志 様 日時：平成30年7月18日（水） 午前9時35分から同11時15分まで 内容 京都教育大学の関口教授から、性の逸脱行動を防止し、人間の性を総合的に捉え、自分たちの性と命の問題を尊重でき、その理解を深める講演をしていただいた。関口教授には、本校がオリンピック・パラリンピック事業を展開し、スポーツへの誘いや障害者や高齢者への理解や共生社会の形成にも力を入れていることを事前に話をし、この講演会の一つの柱としても位置づけていただきたい旨をお願いしていたので、講演の中で、人が幸せに生きることについて、生涯スポーツの観点から



健康や性、ジェンダー等について、生徒の自己肯定感や自尊感情を高められるように話をしていただいた。リオ五輪では、レース中に互いを助け合った、ニュージーランドのニッキー・ハンブリン選手とアメリカのアビー・ダゴスティノ選手の話もしていただき、オリンピック精神とは何なのかを語られた。また、ラファエラ・シルヴァ(柔道金メダリスト)がLGBTであることを自ら明らかにしたことに触れ、オリンピック・パラリンピックでは、ありのままの自分をしっかり肯定するとともに、前向きに取り組む姿を我々も学ばないといけない、という話もしていただいた。

② マナーとおもてなしの精神を育成する講演会

演題 「グローバルマナーとおもてなしの心」

講師 筑波大学客員教授 江上いずみ 様

日時：平成30年11月14日（水）

午後1時50分から同3時50分まで

内容 「平成30年度開校記念日講演会、及び 平成30年度オリンピック・パラリンピック推進事業講演会」

筑波大学客員教授の江上いずみさんを招聘し、東京オリンピック・パラリンピックを目前に控えて、「グローバルマナーとおもてなしの心」と題して以下の内容で講演をいただいた。



○第1章 日本の文化「おもてなしの心」

「表裏のない本心でお客様をお迎えしお世話する」の意味

＝ 大切な人をお迎えするときの気持ち

＝相手に喜んでもらうために心を尽くすこと

◆ 「おもてなし」と「サービス」の違い

＝オリンピック・パラリンピックのボランティアもお給料やアルバイト代を支給されるわけではなく、

まさに「見返りを求めない対応」でやる活動

○第2章 おもてなしの心を育むことの大切さ

▪ 第一印象の大切さ

▪ 第一印象を高める5原則

①表情 ②態度 ③身だしなみの大切さ ④言葉遣い ⑤挨拶

○第3章 グローバル人材の育成と異文化コミュニケーション

① 外国人を迎えるグローバルな挨拶<ハグ>と<握手>

② 訪問先に入室する際のノックの回数

○第4章 おもてなしの心の表し方

▪ 「おもてなし」の表し方は相手によって変わる話

▪ 国籍・文化を越えた「おもてなし教育」

○第5章 言葉掛けとおもてなしの心

▪ 「おもてなし大国」日本の真実

＝「Please」と「Thank you」が言えない日本人
・ラストフライトの思い出より

「おもてなし上手の日本人」と「(お)もてなされ下手の日本人」

⇒「おもてなし」を受けたときの心づかい

お礼が言える「(お)もてなされ上手」の日本人へ

・コミュニケーションによる「おもてなし」

【生徒の感想】

「グローバルマナーとおもてなし」の講演を聴いて、今まで何気なく使っていた言葉の中に、目上の方に使っては、失礼に当たるような言葉があることに正直驚きました。僕たちがグローバルなマナーを学習する前に、そういった視点に立ち、身近なことに気を付けていくことが大切なんだ、ということ学ぶことができました。

今日講演いただいた江上先生は、かつての皇太子殿下・美智子妃殿下(現在の天皇陛下)が搭乗される特別便で、アメリカの各地を回られたということを知り、完璧にマナーを習得されている方なんだ、と改めて驚かされました。でも、決して堅い話をされるわけではなく、私たちが興味を持つよう工夫していただき、グローバルマナーとおもてなしとはどういうことなのか、私たちが理解しやすいように、楽しくお話しいただいたことに感謝しています。

これから2020年には、待ちに待ったオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。私たちみんなが、一丸となって、このオリパラを成功させなくてはなりません。国際社会でしっかり通用するマナーと、日本人としての誇りを大切に恥ずかしくないマナーを身につけ、おもてなし精神を持っていきたいと思います。

(2) 地域スポーツの振興及び障害者スポーツ等に係るボランティア活動

① オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツボランティア活動を行い、地域の活性化に寄与する活動

ア 大会名 第34回全京都車いす駅伝競走大会

日時 平成30年9月2日(日)
午前8時から午後4時頃まで
参加者 運動部員(30名)

場所 京都府立丹波自然運動公園陸上競技場

内容 車いすの選手の誘導補助、交通整理、給水所での給水係や救護補助等を行った。地域で行うスポーツボランティア活動に参加

することで、地域の活性化に寄与することができた。



イ 大会名 京都府立特別支援学校高等部スポーツ交流会
日 時 平成30年10月6日(土)
午前9時45分から午後3時20分頃まで
参加者 運動部員(28名)
場 所 グリーンランドみずほ
内 容 府内11校の特別支援学校の高等部生徒が、スポーツを通して交流を深める交流会。本校の生徒はそれぞれソフトボール、卓球、卓球バレーの3種類に分かれて、競技補助員として参加した。

② ホッケー競技のホストタウンとして地域をあげてスポーツの活性化を図る活動

ア ホッケー教室(ともに2020東京オリンピックへ)

日 時 平成30年12月15日(土)
午前9時45分から
午後3時20分頃まで
参加者 運動部員(20名)
近隣小中学校生、保護者等



場 所 グリーンランドみずほ

内 容 平成30年12月15日(土)に、京丹波町のスポーツ少年団をはじめ、近隣の小中学生や保護者等の大人も含め50人近くの皆さんに、本校の男女ホッケー部の生徒が、優しく丁寧にホッケーを指導する、ホッケー教室を開催した。

京丹波町はホッケー競技のホストタウンとして取り組んでいるが、京丹波町にある唯一の高校として、私たち高校生の果たす役割は大きいと考えこの取組を行った。



高校生が子どもたちに、優しく丁寧に接することで、児童・生徒たちが「ホッケーをやってみたい」「ちゃんになりたい」という校生にとって「お兄ちゃん!」と子どもたちが肯定感や自己有用感の高ま

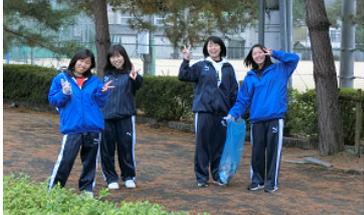
「あんなお兄ちゃん、お姉気持ちにもつながり、本ちゃん、お姉ちゃんありがとう!」と子どもたちが言ってくれることで、自己りを得ることができた。

(3) ボランティア精神を培う活動

今年度のオリンピックパラリンピックに係る事業の締めくくりとして、学校を出て、町内の清掃活動を行った。この活動を通して、私たちの町京丹波町を自らの手で綺麗にし、達成感や自己肯定感を培い、ボランティア活動することの大切さを学ばせたいと考えた。

日 時 平成30年12月7日(金)
午後1時から午後4時まで



	<p>参加者 運動部・文化部員63名 生徒会役員等12名 場所 須知高等学校外 内容 須知高等学校外の半径約1～3kmあたりの地域を、各クラブごとに分かれて、清掃活動を行った。</p> 
<p>6主な成果</p>	<p>講演会では、スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や健康や人権の視点、マナーとおもてなしの視点等、今回のテーマに合致した様々な視点から話をしていただいたので、生徒達にとって新しい発見があった。オリンピック・パラリンピックを目前に控え、国際社会の一員として、おもてなしの精神やグローバルマナー等の大切さを学び、自分の視野を広げることができるようになった。</p> <p>また、様々な取組を通して、生徒の自己肯定感や自尊感情を高め、よりよく生き、自他共に大切にし、地域を活性化させようとする機運が生まれたのではないかと感じている。</p> <p>地域清掃活動中、地域の方から、「ありがとうね。」「頑張ってるんやね。うれしいわ。」等、声をかけられ、自己肯定感や自己有用感の醸成が図れたのではないだろうか。自分たちがやっている行動を肯定されることで、自己存在感が高まっていくことも、この事業での大きな成果と言えるのではないかと考えている。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>2020年に行われる東京オリンピックパラリンピックに向け、スポーツに対する興味関心の向上はもとより、「マナーとおもてなしの気持ち」「スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築」を大切にしたい取組となるように工夫した。本校の生徒が今後、インクルーシブ社会の構築の担い手になるよう、様々なボランティア活動を用意し、地域との連携を図った。</p> <p>講演会では、生涯スポーツの基盤の育成を目指し、健康や人権の視点から、自己肯定感や自尊感情を高め、よりよく生き、自他共に大切にできるような講演になるよう講師にお願いした。</p> <p>また、グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶことにより、国際社会の一員としての自覚が生まれるようにも工夫した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>グローバルな視点を持たせ、国際社会で生き抜く生徒の育成を図ることができるよう、取組を進めてきたが、どうしても、引っ込み思案で、積極的に取り組むことのできる生徒が少ないのが現状である。</p> <p>イベント的な取組だけではなく、日常的に、あらゆる教育活動の中で、自己肯定感や自己存在感を高めることのできる仕組みや仕掛けを作っていく、あきらめずに頑張ろうとする生徒の育成を図ることが、本校における今後の課題と言える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>国際社会の一員としてグローバルな視点から「マナーとおもてなしの心の育成」については、今後もさらに取り組んでいく必要があると感じている。</p>

	<p>また、ボランティア活動を中心とした、様々な活動もさらに取り組み、地域と共に歩む須知高等学校になるよう、来年度以降も取り組んでいきたい。</p>
--	--